

自由民主党群馬県支部連合会 県議会議員と本会役員が意見交換



金子会長



10月7日、前橋市・マリーキュリーホテルにおいて、自由民主党群馬県支部連合会商工議員連盟の県議会議員と本会役員との経済情勢懇談会を開催した。

はじめに、主催者を代表して本会金子正元会長が中小企業・小規模事業者の厳しい実情や課題を述べ、本県経済が元気になる意見交換を行いたいと挨拶を行った。

次いで、自民党県連商工議員連盟会長松本耕司氏が、「TPPによってプラスになる企業、マイナスになる企業が出てくると思うが、皆様のお力添え、ご協力をいただきながら、日本国民が幸せになれるように精一杯取り組んでいきたい」と挨拶を行った。

また、群馬県議会議長岩井均氏は「群馬県の将来を見据え、コンベンションの推進にしっかりと取り組んでいく。中国経済減速等厳しい環境は続くが、中央会と共に群馬県経済をしっかりと支えていきたい」と挨拶を行った。

次いで、出席者の自己紹介を行った後、金子会長が座長となって議事を進めた。

懇談会では、中小企業組合の現状と課題について、群馬県板金工

業組合桑原洋理事長が左記のとおり報告するとともに、本会馬場伸一指導部長が、主な組合の活動事例を紹介した。その後、行政や金融機関との連携、商店街活性化、行政との災害支援協定等について意見交換を行った。

懇談会終了後、別室で懇親会を開催。町田錦一郎副会長の挨拶に続いて、自民党群馬県連商工議員連盟副会長織田沢俊幸氏が挨拶を行った後、同連盟幹事長橋爪洋介氏の音頭で乾杯となった。

最後に、武井宏副会長の中締めで全日程を終了した。



経済情勢懇談会開催



意見交換を行う県議会議員

昭和38年に組織を立ち上げ、組合員は500人程だったが、現在は161人まで減少している。以前と違い、親の仕事を継ぐ人が少なく、廃業・脱退するケースが多いことが原因。若い人を募集するためにパンフレットを作ったが効果は薄く、組合存続のために、やむを得ず組合費を上げた。

また、現場に入るには、資格取得や年齢制限などがあり、これらが職人不足に拍車をかけている。組合では、陳情活動を通じて改善要望を続けているが状況は変わっていない。また、昨年2月の大雪の際には、仕事はあるが材料が足りない状況を経験し、最近ようやく落ち着いた。

同業種間で意見交換を行う機会を設けるが、なかなか良い打開策が見つからない状況である。



群馬県板金工業組合
桑原 洋理事長



理事会

なお、懇談会の前に、同ホテルにて、理事会を開催。理事21名、監事3名が出席し、上半期の事業報告を行い、内容の承認を得た。

また、武井宏副会長、吉田吉太郎常任理事、坂本正堂常任理事、松井誠常任理事、小林美知夫常任理事、今川守常任理事、大竹良明理事から、組合の状況、景況動向、設備投資、業況、まちづくり、規制緩和等について意見又は報告がなされた。

◎懇談会を終えて
 今回で4回目の開催となります。中小企業の生の声を受け止めて頂き、県政に活かしてもらえることを期待します。

判例から著作権を考える



池尻淳一氏

群馬県印刷工業組合(吉田吉太郎理事長、組合員49人)は、10月6日、高崎市・ビエント高崎において、「身近な事例に学ぶ印刷会社の著作権」をテーマに講習会を開催した。講師は全日本印刷工業組合連合会事務局長池尻淳一氏。

池尻氏はまず、印刷会社が作成した版下やデータ・印刷物について、そこに含まれる著作権は必ずしも印刷会社や発注元に帰属しないため、著作権侵害とならないよう注意が必要である旨強調した。

その上で、著作権が著作者人格権(同一性保持権、氏名表示権等)と、著作財産権(複製権、翻訳権・翻案権、公衆送信権等)の権利の束であると説明。著作権の侵害があった場合、訴訟され刑罰まで受けるリスクがあることを解説した。何よりも、その印刷物を使用している顧客にクレームが行ってしまう旨を強調した。

参考：こんなものまで!

一般名称と間違えやすい商標名

商標名	一般名称
フリスビー	フライングディスク
ジープ	オフロード四輪駆動車
ホッチキス	ステーブラ
シーチキン	ツナ缶詰
ナイロン	ポリアミド
ラジコン	無線操縦装置

次いで、過去の判例を取り上げながら、著作権侵害の判断基準や、著作権者の許諾が必要な場合と不要な場合等について解説した。

また、官公需における著作権の取り扱いや、関連する法制として肖像権・不正競争防止法・商標法を紹介した。

◎講習会を終えて

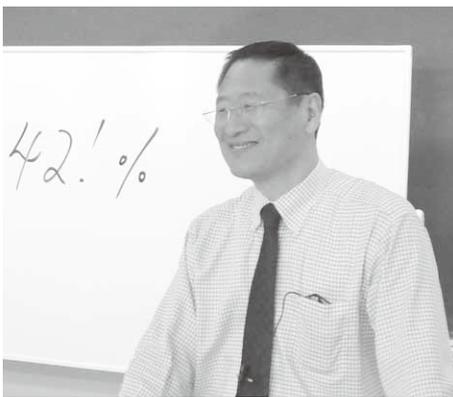
著作権に対し、より強く関心が寄せられるようになってきています。本講習を活かし、顧客からの信頼を強めていただければと思います。

中堅リーダー研修

10月14、16日、高山村・セミナーハウス高山において、県内各地から中堅管理・監督者16名の参加を得て、第49回中堅リーダー研修を開催した。

今回の研修も、中小企業診断士や心理学カウンセラーの資格を有する経営コンサルタントの雨宮利春氏が講師を務めた。

雨宮氏は、リーダーシップの考え方が変わってきているとし、「従来は指導力や統率力といった意味で捉えられてきたが、新しい考え方では、影響力という幅広い意味で捉えられるようになってきている」と述べた。



雨宮利春氏

そこで雨宮氏が提唱しているのが「サーバントリーダーシップ」。リーダーの仕事はサービス業と定義して、リーダーは部下の成功に奉仕すべきとするリーダーシップ・スタイルである。参加者は、3日間を通して行われたグループ討議による事例研究、ロールプレイ等の体験により、このサーバントリーダーに求められるスキルである「傾聴のスキル」や「問題解決手法」「プレゼンテーション技法」「部下指導・動機づけの技術」等を学んだ。

なお、雨宮氏の指導カリキュラムの特徴として、自身が持つ各資格を活かした「財務知識」や「メンタルヘルス」に加え、今年からは「セクハラ」「パワハラ」も組み入れ、内容の濃い研修が行われた。



盛り上がるグループ討議

群馬で就職！
合同企業説明会

10月26日、前橋市・ヤマダグリーンドーム前橋において、合同企業説明会を開催し、県内に本社・事業所を有する88社がブースを設けて学生等に説明を行った。

本説明会の対象者は、平成28年3月卒業予定の大学・大学院・短大・専修学校生に加えて、既卒3年以内で概ね30歳までの求職者で、会場には160人を超す学生等が集まった。



熱心なやりとりが続いた会場

各企業の担当者はブースに訪れた学生等に自らの会社の説明を熱心に行い、学生等は終始真剣な眼差しでその説明に耳を傾け、積極的に質問をする姿も見受けられた。

また、今年度の県内企業の採用活動は選考時期の繰り下げや、売り手市場等の影響により非常に厳しい状況が続いているとのことであった。

なお、本会主催の合同企業説明会は、12月15日に第2回目を開催する予定となっている。



追加の受付票を記入する求職者

◎研修会・説明会を終えて
より良い企業を目指すためには、在職の社員の育成に加え、新たな人材の確保が挙げられると思います。今年の採用活動は特に厳しいようですが、今後の動向を注視していきたいです。